

科学研究費助成事業（国際情報発信強化） 中間評価

課題番号	17HP2002	事業期間	平成29(2017)年度～ 令和3(2021)年度
取組の名称		団体名称	代表者名 (職名・氏名)
日本から発信するアジアの環境変異 原・発がん研究		日本環境変異原学会	会長・本間 正充
学術刊行物の名称			(略称)
Genes and Environment			

【令和元(2019)年度 中間評価結果】

評価	評価基準
A+	当初計画を上回っており、かつ改善した評価指標による目標達成が見込まれる。
A	当初計画が達成されつつあり、今後の目標達成が見込まれる。
○ A-	当初計画より一部遅れは見られるが、概ね今後の目標達成が見込まれる。
B	今後の目標達成の見込みはあるが、経費の使用に問題があるため、経費の減額が適当である。
C	今後の目標達成が見込まれないため、取組の中止が適当である。
(評価意見)	
<p>インパクトファクターの取得に向けての取組は順調で、2020年から付与されることになったことは高く評価できる。</p> <p>一方、掲載料全額補助については、アジア諸国からの論文は年に2件程度で、多くが国内からの招待論文や、国内会員への半額補助に支出されている。国内論文は質が高く、インパクトファクターの向上に貢献すると思われるが、本来の目的であるアジアからの投稿を促す取組について更なる検討が必要である。そのために、インパクトファクターが付与されることの周知など、さらなる努力が望まれる。また、日本の研究レベルの高さを示し、当該学術刊行物のステイタスをあげるためには、総説が重要だと思われるが、3年間で1回しか組まれていない点は残念である。</p> <p>投稿数の予測は、インパクトファクターの取得を見込んでいるとは言え、かなり強気で実現可能性に疑問がある。本事業終了後に、掲載料補助を全額学会から支出する計画だが、財政基盤を検討した上での計画なのか、不安がある。</p>	